

民間の資金を活用してインフラ整備を進めるBOT(建設・運営・譲渡)案件に「黄信号」がともり始めた。総額およそ1兆5000億円規模という世界最大の民間鉄道プロジェクトとしてBOT方式で台北—高雄間(約345キロ)を90分で結ぶ予定の台湾高速鉄道(台湾新幹線)が陥っている資金調達難と開業遅延問題が「BOT神話」に影を落としている。このため立法院(国会)の交通部会では計画中の

当局の支援が求められるなど、資金的負担が肥大するとの懸念からだ。

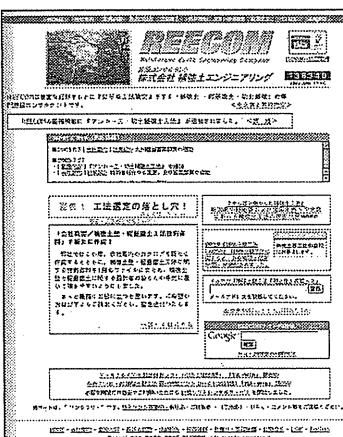
とっては大型案件への参入チャンスが得られる。鉄道などインフラ完成後の利用者からの運賃収入などで建設費を返済し、収益を上げるしくみとなつておらず、独占案件だけに銀行などにとっても優良な資金の貸付先と映っている。

このためインフラ建設予算の圧縮を図りたい当局側と建設事業の拡大を図りたい企業の思惑が一致し、台湾でBOT手法が多用されてきた。

ところが台湾新幹線の場合は計画通り出資者が集まらない問題や、建設遅延による金利支払い問題などが発生。さらに問題が問題を生むという悪循環に陥った。また、公的資金で建設するよりも金利負担が高いなど、運営時に利用

りは、高速鉄道にの発生を無視したにBOT方式を採用の姿勢が浮き周辺形だ。立法院交連議は、そうした背景、11案件をすくした上で計画をし、当局が将来、増加に陥らないとするよう求めたもの

11件のうち最も北市の南港駅から蘭県礁溪駅まで、由して最短距離で鉄道路線建設プロジェクト(総投資額339億4千1154億円)のうち、萬元(約735億円)に頼る計画だ。事態で建設が大幅



同社ホームページ

補強土工法専門コンサルタントとして誕生した。同社は平成八年、補強土工法と軽量盛土工法の専門コンサルタントとして誕生している会社だ。

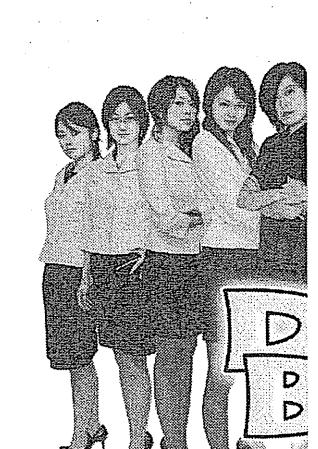
補強土工法エンジニアリング(通称REEC COM)。これほど業務のわかりやすい社名も珍しい。読んで字の如し、土を補強して、補強土壁を構築する技術を持つ

株式会社補強土工法専門コンサルタント

羽ばたく関西

PR
企画(株)エスコミュニケーション
制作 06(6304)2571

やテレビ番組のセッティング、カーラッピングといったサイズの大きなものから、ダイレクトメール、パンフレットなども作成するが、中でも、と



「DIGI B
大阪市西区南堀江
四一四一
◎東京スタジオ
03-5568-0610
新宿区谷町三一六六
<http://www.concom.co.jp>

も、工事費が安価な工法が採用されやすくなっているからだ。このような傾向が続ければ、補強土壁自

体の品質が低下し、今後ともない事態に発展することも考えられる。だからこそ、REECOMの存在意義があるといえよう。

同社では、「耐久性はどうか?」「現場における施工性に問題はないか?」「景観を損なつていないか?」といった補強土壁に求められる機能(安全性、耐久性、施工性、経済性、維持管理、周辺環境との調和など)すべて

を考慮し、数多くある工法の中から最適なものを選択する。それを成し得るのは、敢えて業務を絞り込み、得意分野を深く追求することによって培った経験と

ノウハウによるところが大きい。もちろん独立性が極めて高いことも重要なファクターである。同業他社のいない真の「公平な工法選定」を行えるプロフェッショナル集団REECOM。近年、アンカーワーク、切土補強工法も業務領域に加わっており、「今まで以上にお客様の要望に応えられる」(小川憲保社長)と、新たな柱にも期待を寄せている。東京事務所も開設し、よりスピーディーな顧客対応を目指す同社に今後も注目したい。

資料請求・問い合わせ
06-556-1671
<http://www.reecom.co.jp>